

伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会 基本理念・宣言について

伊勢志摩エコツアーリズム推進協議会設立準備会 基本理念作成部会

目次

- 部会の目的
- 部会の構成員について
- 会議日程
- エコツアーリズムとは
- 宣言文について
- 最後に

基本理念作成部会 部会の目的

国立公園満喫プロジェクトの取組を先行的集中的に実施していくナショナルパークに選定

- 選定理由 ①伝統文化
②エコツーリズム全体構想

伝統文化を守り伝え、次世代へ継承する仕組みを、
エコツーリズムとして地域全体で取り組むことが必要

伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会がその中心

3

基本理念作成部会 構成員

| 所属 | 氏名 |
|---------------------|-------|
| 伊勢福 | 橋川 史宏 |
| 海島遊民くらぶ | 江崎 貴久 |
| 伊勢志摩バリアフリースーツアーセンター | 野口あゆみ |
| 海の博物館 | 石原 真伊 |
| 志摩自然学校 | 生賀 照央 |
| サニーコーストカヤックス | 本橋 洋一 |
| 南伊勢町観光協会 | 河原 沙希 |
| 伊勢志摩観光コンベンション機構 | 西村 元 |
| 伊勢市 | 柘植 健吾 |
| 鳥羽市 | 木下 大輔 |
| 南伊勢町 | 濱地 太郎 |
| 環境省志摩自然保護官事務所 | 内田 清隆 |

4

基本理念作成部会 会議日程

- 第1回：「伊勢志摩地域の『宝物』の洗い出し」
7月10日（月） 19時～21時 @県伊勢庁舎
- 第2回：「『宝物』を活用したエコツーリズムの姿」
7月26日（水） 19時～21時 @県伊勢庁舎
- 第3回：「基本理念・宣言文の草案とブラッシュアップ①」
9月11日（月） 19時～21時 @県伊勢庁舎
- 第4回：「基本理念・宣言文の草案とブラッシュアップ②」
10月2日（月） 19時～21時半 @県伊勢庁舎
- 第5回：「基本理念・宣言文の草案とブラッシュアップ③」
10月16日（月） 19時～23時半 @県伊勢庁舎

5

エコツーリズムとは

【エコツーリズムの定義】

旅行者が、生態系や地域文化に悪影響を及ぼすことなく、自然地域を理解し、緩衝し、楽しむことができるよう、環境に配慮した施設及び環境教育が提供され、地域の自然と文化の保護、地域経済に貢献することを目的とした旅行形態

（東京大学大学院農学生命科学研究科 下村彰男教授）

つまりエコツーリズムの目的は・・・



「地域資源の保全管理」「豊かな観光体験の提供」「地域の愛着創出」

地域（という）資源の持続的活用に基づく新たな地域運営の仕組み

6



基本理念について



基本理念

伊勢志摩国立公園 エコツーリズム基本理念

伊勢志摩の風土は 自分自身の心を映し出す【鏡】となります

伊勢志摩の地に立ち あなたの大切なものを映し出してください

伊勢志摩の風土に触れ もう一度 大切なものを思い出してください

私たちはこの地で あなたを映す【鏡】を磨き続けます



宣言文について

宣言文

伊勢志摩国立公園 エコツーリズム宣言

- ① 先人たちが自然から学んだ 生きる知恵は
時代に磨かれ 日々の暮らしの中で受け継がれてきました。
すべてのものに感謝する気持ちも同じです。
- ② 伊勢志摩を旅して 照葉樹の森を歩いてみてください。
海女の暮らしや 真珠筏の浮かぶ風景を見てみてください。
そこには 持続可能な世界へのヒントが映し出されています。
- ③ 私たちは ここに宣言します。
伊勢志摩国立公園を訪れてくださる人びととともに
未来に引き継ぎたいものを見出す新しい旅が 私たちのエコツーリズムです。
そして 先人たちに恥じない地域づくりにつなげていきます。

宣言文のポイント①

先人たちが自然から学んだ 生きる知恵は

伊勢志摩の暮らし・文化のこと

時代に磨かれ 日々の暮らしの中で受け継がれてきました。

時代の状況に合わせて 日常生活や祭り、 = 里山・里海の
変化（手を加える） 風習などの中で 二次的自然の成立

すべてのものに感謝する気持ちも同じです。

おかげ様の精神（自然の恵みを受けてきたという自覚と感謝）



自然と共に生きる知恵や精神を千年かけて
築いてきた風土が伊勢志摩にある
だから、伊勢志摩はエコツーリズムを行うにふさわしい地域

11

宣言文のポイント②

伊勢志摩を旅して 照葉樹の森を歩いてみてください。
海女の暮らしや 真珠筏の浮かぶ風景を見てみてください。
そこには 持続可能な世界へのヒントが映し出されています。

新しい旅の形や地域づくり 見出す・再確認
旅に関わる人達の大切なもの



風土を体感することで何を感じるのかで、その人の状況が分かる
⇒その時、その状況で、自然の感じ方は異なる
伊勢志摩を訪れることで、その時の自分が何を感じ取れるのかを確認
自分自身や、親しみのある地域のことを見直す機会になる

伊勢志摩への旅は自分の大切なものを見つめ、
再確認するきっかけを得る旅

12

宣言文のポイント③

私たちは ここに宣言します。
伊勢志摩国立公園を訪れてくださる人びととともに

観光客・地元住民双方が

未来に引き継ぎたいものを見出す新しい旅が 私たちのエコツーリズムです。

風土の中にあって継承すべきもの ポイント②の旅の形

そして 先人たちに恥じない地域づくりにつなげていきます。



地元と観光客の双方が手を取り合って、
次世代の風土を一緒に作り上げていく仕組みを提供し、
実施していくことが伊勢志摩のエコツーリズム

13

最後に・・・

14